

トップニュース：北陸初の L R V が万葉線に登場！



去る12月12日に富山県の高岡市・新湊市を走る万葉線に新型 L R V が入線、14日には日中に米島車庫と高岡駅前の間を試運転、大勢の人が沿線でカメラを構えるなど、市民の L R V への関心の高さを示しました。

この L R V、新潟トランス製で岡山の MOMO の姉妹車。北陸初の L R V で、4 年間で L R V が 6 編成が導入される予定ですが、その時点で日中の全てが L R V による運行になり、万葉線は実質的に L R T になります。

今後の北陸新幹線の新高岡駅建設にからみ、万葉線車両の城端線への乗り入れも、高岡市長や万葉線株の社長が当たり前と言うかのごとくに触れており、今後の万葉線を核とした公共交通の再編・L R T 化推進の取り組みが気になるところです。富山県ではさらに富山港線の取り組みも続いており、日本にも、それも北陸で、L R T というものが現実に出現しようとしています。

一方で福井も L R T のシステム導入の適地として全国から注目を集めている場所。この地の議論が、あるべき交通やまちづくりの姿を追求するという構図ではないだけに、高岡や富山と比べて L R V ・ L R T の導入は難しいには違いありませんが、やはりこの絶好のロケーションを活かしていきたいものですね。 (文・清水)

活動報告

- 11月28日 11月例会
- 12月4日 第15回まちづくり懇談会
- 12月12日 都市再生モデル部会
- 12月16日 12月作業部会・都市再生モデル部会
- 12月17日 都市再生モデル部会
- 12月26日 12月例会・都市再生モデル部会
- 12月26日 ROBA忘年会

今後の予定

- 平成16年
- 1月6日(火) 都市再生モデル部会
- 1月8日(木) 第16回まちづくり懇談会
- 1月13日(火) 1月作業部会・都市再生モデル部会
- 1月15日(木) 都市再生モデルアドバイザー会議
- 1月20日(火) 都市再生モデル部会
- 1月23日(金) 1月例会・都市再生モデル部会
- 1月27日(火) 都市再生モデル部会

バスマップサミットのついでに岡山と広島の視察してきました。
「百聞は一見にしかず」ということで写真を中心にレポートします。

岡山 たった1編成だけ・・・それでも大きな変化が

目抜き通りを走る MOMO

「きれい・かわいい・かっこいい」と評判のMOMO。
従来の路面電車のイメージを払拭するすばらしいデザイン。
センターポール化された街路とともにすっかり「街の顔」。



MOMO の車内
内装デザインは工芸品

が

乗客は交通弱者ばかりではない



車窓から(1)
座席からの視点は歩行者と同じ

あたかも街を散歩しているよう



車窓から(2)
大通りを抜けると突如こんな風景

名産きびだんごの老舗か？



岡山駅前の電停
駅の正面、駅前大通りの中央にある
左は清輝橋線、右は東山線



一般的な電停
ホームの幅は1M だが段差は無い
屋根や防護柵も新たに設置



電停のホーム
MOMOにあわせて作り直した様子
みごとなまでに隙間が小さい



情報案内

時刻表、運賃表、路線図がついて
とってもわかりやすい案内板
接近情報表示も当然設置済

MOMOをもっと見たい方はこちらへ

<http://www.5b.biglobe.ne.jp/ktnh/momo/index.html>

MOMOの導入にあわせて、電停が改良され、情報案内が刷新され、センターポールに・・・
街のイメージまで変った？ たった1編成だけどMOMOの影響力はものすごく大きい。

広島 ヨーロッパにまで行かなくても…

LRT を目指して急速に進化中

すれ違う GREEN MOVER

広島の路面電車は元気が良い。
信号が変わると自動車に負けずに加速をみせる。

広島駅前電停

駅前広場の中にある電停はわかりやすくバリアフリー
低床の GREEN MOVER (12 編成) や高床のグリーンライナー (23 編成)
といった LRV がひっきりなしにやってくる。



宮島行き GREEN MOVER が入線



左はタクシーおりば



右の屋根は地下広場への入口



鉄道区間は 70km/h で走行



GREEN MOVER の車内



こちらはグリーンライナーの車内
連接車には車掌が同乗



駅広に電停を移設した JR 横川駅
大屋根のある電停部分は完成済
現在は広場を工事中
電停の後方がちょうど JR の改札口

フェリーターミナルに隣接した宇品電停
ターミナルを出ると目の前に電車のりば

JR やフェリーといった事業者の垣根を越えた路線の
結節性の向上に積極的に取り組んでいる様子。
海外に学んでいるようで総じてデザインの質が高い。

ストラスブルやポートランドにはかなわないが
国内各地の路面電車もどんどん進化している。
進化が止まっているのはもしかして福井くらい？
やっぱり少しでも良いものを見なくちゃ。



中部地区路面電車サミット at 万葉線 参加報告

去る11月22日(土)北陸3日間連続シンポジウムのトップを切って、高岡市の国立高岡短期大学において中部地区路面電車サミット at 万葉線が開催された。中部地区路面電車サミットとしては昨年の豊橋に次いで2回目となる。地方における鉄道や路面電車の廃止問題が続出する中で、市民主導の路面電車存続ということで注目を浴び、マスコミに取り上げられることが多くなった万葉線の地元が主催であるということ、そして北陸3日間連続・・・という日程設定が話題となり、中部圏だけでなく東京ほか遠方からの参加者を含め、市民団体、企業、行政、一般市民・マスコミなど170名の参加者を集めた。



参加団体は、路面電車と都市の未来を考える会・高岡(RACDA高岡:主催) 万葉線を愛する会(高岡・新湊:共催) とよはし市電を愛する会(豊橋) 岐阜未来研究団、ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBAの会)、協力団体は、岐阜の路面電車をみんなで考えるプロジェクト(プロジェクトG)、北勢軽便鉄道をよみがえらせる会(桑名市)、富山県交通政策研究グループ、全国路面電車ネットワーク、富山市公共交通応援団など。

会場は高岡市の郊外、二上山の麓にあり、当日は万葉線米島口電停からチャーターバスが輸送にあたり、万葉線を活かすことに貪欲なところを示したが、電車とバスの接続にあたっての粋な計らいに感心することしきりだった。こうして万葉線がイベント輸送に活用されたことは福井でも大いに参考にしたいところだ。

午前中は特別説明会として「万葉線はなぜ残ったか」をテーマに万葉線の存続経緯について、RACDA高岡顧問で国立高岡短期大学の武山先生、島会長、高岡市役所で当時この問題を担当していたRACDA高岡会員の佐野市民生活部長、小神元交通対策課長が、掛け合いも交えながら解説した。早朝にも関わらず、東京から来たマスコミ関係者も含め42人が参加、話は国の交通政策の流れ、万葉線の廃止表明に至る経緯からRACDA高岡の誕生と万葉線問題に関していく経緯、万葉線懇話会での蛸山会長(故人・当時国立高岡短期大学学長)の発言の影響の大きさ、RACDA高岡のキャラバンと高岡市による陰の応援態勢など迫力のある興味深い内容で、わが福井の京福電車の存続問題のことを思い起こさずにはいられなかった。なお、マスコミ関係者のここでの取材記事が後日複数の雑誌に掲載となるなど、一般市民だけでなく、マスコミの関心の高さもうかがえた。



さて、サミット本会では、最初に、今回の北陸3日間連続シンポジウム3連投となる、岡山の路面電車と都市の未来を考える会(RACDA)の岡将男会長が、「目指せ延伸、RACDA 岡山のアクション5」と題し、市民参加によるまちづくりの秘訣について講演、その後参加各団体の代表がそれぞれの取り組みや問題点を報告、わがROBAの会では高橋副会長が「他団体とのコラボレーション」を柱に報告した。岐阜未来研究団の堀さんが報告の最後に、「来年この場に居られるかどうか・・・」と存廃問題に取り組む胸のうちを吐露したのが、全国的に広がりを見せるLRT待望論の一方で、高岡や福井が既に経験済みの路面電車や地方鉄

道全体を覆う厳しい現実を改めて突きつけ印象的であった。パネルディスカッションでは、それらの報告を受けて意見を交換、RACDA高岡の武山先生の絶妙なコーディネートで活発に議論が進行し、最後に、軽快都市宣言(サミット宣言)が発表されて閉幕となった。来年は岐阜。(写真はRACDA高岡 藤重さん提供 文:清水)

軽快都市宣言(サミット宣言)

私たちは、まちに様々な人が集い、華やいた場の中で楽しい時が過ごせるよう、次の活動を積極的に行います。

- ・地域ならではの自然や文化を愛し、これを大切に育てます。
- ・人が訪れたいくなるまちの魅力を創ります。
- ・車に頼らなくても自由にまちを移動できる手段を確保します。

平成15年11月22日 中部地区路面電車愛好支援団体協議会

年末特集 ゆうじんの部屋 書籍紹介

「持続可能な交通へ～シナリオ・政策・運動」 上岡直見 著 緑風出版 2400円＋税

これまで、自動車の社会的費用等を自ら計算したり、計算例を引用したりして、車社会批判の名実とも理論的支柱となった上岡氏の集大成とも言える本である。内容は盛りだくさんで、理論的でわかりやすいのはいつものことだが、幅広い視点から書かれた本であるため、数字の根拠等の説明には若干不満が残る本である。

車社会に疑問を持って真剣に勉強しようとする方は、まずこの本から入って、参考文献を広く当たるのもひとつの方法であろう。車社会を変えていく必要のある理屈は十分勉強ができたが、実際それをどう人々に理解してもらい、政策につなげていくか。その答えが出せずにもがいている上岡さんの気持ちが伝わってくる。

「道路の権力」 猪瀬直樹 著

文藝春秋 定価：1600円＋税

公務員、公団職員といった、法律と予算で身分が決まる人々は、何に労力をかけるか。当然法律と予算が、自分に有利に決まるように政策企画をすることに労力を使う。情報公開法は、国のために働く職員と、自分のために働く職員を明らかにすることを容易にした。しかし、一般の公務員に至るまで、資料ベースで行為の可否を解明するのは非常に骨の折れる作業である。

猪瀬氏は、そうした官僚の体質をよく理解した上で、ポイントをついた追求を得意としている。行政改革のコツとしてはおもしろい本なのであるが、高速道路と一般道路と他の交通機関の分担のあるべき姿、道路交通の水準をどうすべきか等について、全く議論されないまま、組織退治だけが行われているのは残念である。

「道路行政失敗の本質＜官僚不作為＞は何をもたらしたか」 杉田聡著 平凡社新書 760円

人間の生命の尊厳価値は無限大、経済的価値は手段にすぎない。こう明確に言い切ると体制派経済学者の現状維持の政策論に明快に対抗した論陣を張ることができる。宇沢弘文、杉田聡氏の本はわかりやすく、杉田氏の交通事故を生むクルマ社会への痛烈な批判はこの本の後半でも繰り返されるが、前半には公務員の天下り攻撃が加わった。

確かに、日本の政策はすべて問題が起きた時、GNPが増える方向の解決策に偏っている。それは天下りに少しは原因があるであろう。

でも、公務員の政界転出まで禁止するのはいかながなものか。日本の交通問題解決の知恵の多くは公務員の中にあると思うのだが。

(文/美濃部)

御礼

まちづくり進歩ジウム『つないで生きる電車・バス』を終えて

ROBAの会 会長 内田桂嗣

平成15年も最後になりましたが、一言御礼を申し上げます。11月24日に開催いたしましたシンポジウムは、約200名の参加者がありました。NPOが主催する行事としては、東京でもこんなに人はこないよ、と東京を拠点とするNPOの方も感心しておられました。ご協力ありがとうございました。

ROBAの会会員のみなさんにおかれましては、度重なるメールの山。そして、決定事項のわかり難い案内が度々流れていたかと思います。また、参加しようにも途中からは参加し難い状況もあったかとは思いますが、会員のみんなに支えられて盛会となりましたことはROBAの会の団結の力だと思います。

また、最近マスコミや行政のセクションから取材や相談が持ちかけられますが、これはROBAの会のこれまでの主張や活動が認められてきた証左であり、これからも我々の理念に自信をもって活動をしなければならないと思います。その期待の現われとしてシンポジウムに多くの人の足を運ばせたのではないのでしょうか。

準備から参加した人、シンポジウムだけ参加した人、残念ながら参加できなかった人と色々ですが、まちづくりに終りはありません。ROBAの会にも終りはありません・・・？シンポジウムを開催して、より課題が多くなり、よりすることが増えたようです。会員ひとりひとり少しずつ考え方はちがってもわが街を住みやすい街にしたいと思う気持ちは同じです。今回参加できなかった人も時間を調整して、是非活動に参加して下さい。会員みんなの力で、ROBAの会を盛り上げていきましょう。そして、公共交通を盛り上げていきましょう。

来年も皆様にとって、そしてROBAの会にとって良い年となりますよう、心から祈念いたします。

平成15年12月26日

まちづくり進歩ジウムを終えて

熱く核心を突く中村文彦先生の語り、趣向を凝らした報告、そして会場にいるすべての人を引き込んだパネルディスカッション。いつのまにか聴衆のひとりとなっている自分に気付き、純粋にその「進歩」に感動を覚えました。

「すべてはこの数時間のため……」そうして費やされた時間を惜しげもなく凝縮したこのシンポジウム。足を運んでくださった皆様の「まち」に対する気持ちを、揺さぶったことを確信できます。シンポジウムのまさしく「柱」である基調講演で、まちと公共交通に関するすばらしい講演を下された中村先生からは、新たなまちの「生きる」道を非常に熱く、そしてわかりやすく示して頂きました。先生の一言一言に込められたその「理」に大きな感動を覚え、まちを変えるためのチカラが伝わりました。そして事例報告。基調講演とパネルディスカッションにはさまれたこの時間こそが、本シンポジウムの命題を反映したものであったと今になって感じられます。つながりとは何か、それが何を生むのか、限られた時間ながらその凝縮された内容は、どれほど聴衆の皆様になんか「思い」を与えたか計り知れません。そして最後を締めくくるパネルディスカッションでは、力強いパネラーの皆様と、川上洋司先生の華麗なコーディネートによって、「進歩」へのみちが見えたと思います。

基調講演を下された中村先生をはじめ、公私両方の立場から熱く語ってくださった竹内繁先生、楽しく時には厳しく都市の未来を語ってくださった岡将男先生、我々市民の立場からもっとも真摯な意見を述べていただいた三崎幸恵先生、そして会場の皆様から頂いたすべての貴重なご意見を今後どう「活かす」かは、やはり「まち」に「つながる」我々次第だと思います。一步一步でも「進歩」するために、このすばらしいシンポジウムで得た成果を、大切に、大切に、まちをそして未来を考えていかなければならないと思いました。

(文/三村 泰宏)



熱く語る中村先生



真剣なまなざしの来場者のみなさま



のりのりマップについて語る林さん



イベント交通について語る清水さん



ワークショップについて語る佐藤さん



のりつぎ体験について語る竹原さん



大いに盛り上がったパネルディスカッション



みなさま、本当にお疲れ様でした！

第15回まちづくり懇談会の報告

日時：平成15年12月4日(木)19:00~20:45

場所：駅前商店街会議室(五十嵐ビル6F)

参加者：(ROBA)清水,川口,玉井,内田

(まちなかNPO)永井,大森,村北,古市,伊井,山下,上田(他)四ッ井

(子どもNPO)岸田(福井大学)清水(福井工大)古木

(福井県大)藤重,山田,国島,宮下,富田

議題：

福井市市民協働推進条例素案に対する

パブリックコメント依頼(岸田さんより)

福井市から意見の募集(パブリックコメント)があるが約2年

かけて福井市協働のルール策定委員会が条例の提言を策定したと

ころ、福井市の出された条例素案は策定委員会意見とかけ離れた骨

抜きの内容となっている。策定委員会の提言を採用するよう意見

を出して欲しい。(締切12月20日 福井市HPで内容確認要)

ガレリアポケットでのクリスマスイブ企画

大学生を中心に12月24日のガレリアポケットを活用したイベ

ントの企画詳細の報告があった。スペースを活用して雪でデコレ

ーションをはかり、自然と集まるそれまでの企画と共に実行する

ことを承認した。

当懇談会では、費用負担について協力をする。また、商店街で

も広告等での協力を行なう。他団体や知り合いに声かけをお願い

したい。

報告事項(情報交換)

次回(第16回)開催

日時：平成16年1月8日(木)19:00~21:00

場所：第15回と同様

議題：・12月24日企画の総括と今後の施策

・H16年まちづくり懇談会の計画

(記・内田)

作...漆崎耕次

編集後記……編集委員より一言

林(編集長)

「11月の飲酒京福バスに私は乗っていました。」

清水(副編集長)

「

川口(副編集長)

「

内田(発行責任者)

「

事務局

ふくい路面電車とまちづくりの会

910-8031 福井市種池1丁目1905-3

TEL:0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: homepage2.nifty.com/tram-fukui